

夏に注意したい！感染症！

「夏かぜ」と呼ばれる中には、この時期に流行するウイルス感染症があります。
代表的な夏かぜである、咽頭結膜熱・ヘルパンギーナ・手足口病について紹介します。

咽頭結膜熱(プール熱) 原因ウイルス：アデノウイルス(多くは3型、他に4型、7型、2型など)
感染経路：患者の鼻水、目やに、便などに排泄されるウイルスにより感染します。(飛沫感染・接触感染)
プールの水から結膜へウイルスが直接侵入したり、タオルの共用により感染したりすることもあるので、プール熱と呼ばれることもあります。

潜伏期間：5～7日

症状：発熱(38～39度)、のどの痛み、結膜炎などです。高熱が比較的長く(5日前後)続くことがあります。

対策：流水とせっけんによる手洗い、うがいをしましょう。

感染者との密接な接触は避けましょう。

プールからあがったときは、シャワーを浴び、うがいをしましょう。



手足口病 原因ウイルス：主にコクサッキーウイルスA群(16型、6型)、エンテロウイルス71など
感染経路：患者の咽頭、便、水疱内容物などから排泄されるウイルスにより感染します。
(飛沫感染・接触感染)

潜伏期間：3～5日

症状：口の中や、手足などに水疱性の発疹が出ます。

近年、コクサッキーウイルスA群6型による手足口病では、水疱がこれまでより大きい症例、38度以上の熱が出る症例、症状が消失して一ヶ月以内に手足の爪の脱落が起こる症例などが報告されています。

対策：流水とせっけんによる手洗い、うがいをしましょう。

治った後でも、2～4週間、便からウイルスが排泄されることがあります。また、感染しても発病はせず、ウイルスを排泄している場合があります。特におむつを交換する時には排泄物を適切に処理し、しっかりと手洗いをしてください。

ヘルパンギーナ 原因ウイルス：コクサッキーウイルスA群(4型、6型、10型など)

感染経路：患者の咽頭、便から排出されるウイルスにより感染します。(飛沫感染・接触感染)

潜伏期間：2～4日後

症状：突然の発熱に続いて咽頭痛が出現します。のどは赤く腫れ、小さな水疱ができます。水疱は破れて、潰瘍(かいよう)となり痛みを伴うこともあります。

高熱により熱性けいれんを引き起こすこともあります。

乳幼児は口腔内の痛みから、水も飲めなくなり脱水症状を呈することもあります。十分注意してあげてください。

対策：手洗いをこまめに、しっかり行いましょう。

便中へのウイルス排泄は、発症から2～4週間後頃まで続くとされています。おむつの交換後の手洗いを忘れず行って下さい。咳やくしゃみが出る場合には、マスクをつけるよう心がけましょう。



**手洗い・うがいを徹底しましょう
タオル・おもちゃ・食器等の共用を避けましょう**

